

学級活動

○ 児童会活動

学校行事

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次小学校	対象となる主な学年	第6学年
取組事例名	「 児童会の主体的な活動 」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気で活発である。 ○学力の差や、運動能力の差が大きい。 ○あいさつが十分でない。 ○「学びの応援団」「民生児童委員」等、地域の方のサポートが手厚く、地域の方と児童のかかわりが深い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己実現：自分の意志や判断で行動を選択し、結果からより良い方向につなぐ力 ○人間関係形成：自分の感情や思考を、相手意識をもって、分かりやすく伝える力 ○社会参画：お互いの強みを見つけ、自分の役割を意識し、共に課題解決に向かう力



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

ア あいさつ運動

<事前の指導・導入>

学校内の自分たちの課題を分担し、自発的・自治的に解決を図るというねらいをもとに、児童会で現在の本校の課題について話し合い、「あいさつができていない・あいさつをしてもかえってこない・はずかしがって声が小さい」という課題を発見し、あいさつ運動を行ったり、あいさつに関する劇をしたりして、啓発しようという取り組みを計画した。

<あいさつ運動・あいさつ啓発劇の実施>

毎週月・水・金曜日の登校後、児童会執行部児童が児童玄関前に立ち、登校してくる児童にあいさつをした。あいさつ運動をしていることが伝わりにくいということから、あいさつ運動タスキを購入し、目立つようにして取り組んだ。また、2ヶ月継続して児童会目標を「あいさつをしよう」「さらにあいさつをしよう」と児童会が提案し、継続してあいさつに取り組めるよう考えた。【自己決定の場の提供】



<事後の指導>

朝のあいさつの反応がよくなり、学校全体でもあいさつ表彰をする学級が増えたことを伝え、児童会の取り組みの成果であることを伝えた。

イ 児童会主催のレクリエーション

<事前の指導・導入>

児童会主催で行われる集会活動により、人間関係をよりよく形成するというねらいをもとに、各学年ずつのレクを行った。

<レクリエーションの実際>

八次小クイズを作成し、iPadを使って問題を出した。どの先生の声が当てるクイズを作成するなど創意工夫して、実施した。参加した児童は相談したり、解答を聞いて驚いたりしながら楽しく参加していた。

<事後の指導>

事前の準備をしっかりしていたからこそ、楽しむレクになったことを伝え、当日の活動をイメージして早めに準備することの大切さを伝えた。また、これまでになかった特別支援学級のレクを実施したことは大変良かったことを伝え、新しいことにチャレンジする良さについても伝えた。【自己存在感の感受】

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

- 児童会執行部児童の取り組みによって、あいさつ目標を達成する学級が17クラス中12クラスとなり、目標達成クラスが過去最高数を記録した。さらに児童会執行部児童が意欲的に活動するようになった。
- 児童会執行部児童以外の全校児童を巻き込んで行う活動を仕組み、あいさつの輪を広げたり、いじめをなくしたりするような取り組みに発展させていくことが望ましい。